

鋼橋技術研究会

複合構造接合部研究部会  
平成3年度研究報告書

## S 1 . ま え が き

当研究部会は、昭和60年度に鋼橋技術研究会が設置されると同時に「複合構造研究部会」として発足した。 我国の橋梁技術の発展は、構造用材料の発達に負うところが多い。橋梁に使用される材料は主として鋼とコンクリートである。しかし、鋼とコンクリートは製造工程の違いもあり、それぞれ独立した形で技術開発がなされてきた。そのため、橋梁技術の分野においても鋼橋の技術とコンクリート橋の技術は、独自の手法で開発が進められているのが現状である。コンクリート橋においては無筋構造のものは、きわめて少なく通常RC構造、SRC構造、PC構造等の形式をとり、主としてコンクリート技術者が担当している。今日まで、鋼とコンクリートを合理的に利用した橋梁形式は、合成桁で代表されるが、設計等の技術は鋼橋技術者が担当し、その考え方も基本的には鋼桁の設計思想に基づいている。

複合構造研究部会においては、鋼橋に主として構造力学的見地からコンクリート構造部分を複合させ橋梁全体として合理的な構造形式の実用化に向けて、検討を続けてきた。現在までにとりまとめた研究成果は、

- 昭和60年度. 複合構造の実例と文献調査
- 61年度. 複合斜張橋の構造特性
- 62年度. 複合斜張橋の動的特性
- 63年度. 複合構造のSpec. 提案

平成元年度より、複合構造接合部研究部会として過去の研究成果をふまえて、複合斜張橋接合部の設計一般に関する内容を「設計マニュアル」の形でとりまとめた。

◎また、スペック化するにあたり、当研究部会では詳細な実験研究を実施したわけではない。今後、皆さんの御批判をいただきながら内容の充実をはかってゆきたいと考えている。と同時に、この「設計マニュアル」が皆さんに利用していただけることを願う次第である。